

平成17年度事業計画

1. 事業方針

イ) 事業背景

本学を取り巻く環境は、16年度よりスタートした国立大学の再編・統合と独立行政法人等の構造改革、私立大学においては設置認可制度の弾力化、更には、高度情報通信化を背景とした教育研究面でのグローバル化、ボーダレス化に対応すべく、競争原理を導入した「21世紀COE」「特色ある大学教育支援プログラム」等による大学改革を進めつつある。

加えて、法制化された認証評価機関による第三者評価及び情報開示は、17年度よりスタートすることとなる。

一方、外的要因の最大なものに18歳人口の減少がある。18歳人口は平成4年の205万人をピークに平成26年度には119万人と約半減することが予想されており、このことは経営上の問題は勿論、今後益々学生の多様化が進み且つ教育水準が問われることとなり、教育方法は学生の個性・能力に対応した多様なものへと従来より一層の変革が求められる。

ロ) 基本方針

このような状況のなかで、本学は教学面では、自己点検・評価を進めるとともに、教育・研究の特色化・個性化に取り組み、さらには教育・研究活動等の積極的情報開示、魅力ある教育内容の改善のための組織的な取り組みを行っていく方針である。

経営管理面では、財務内容の段階的改善に取り組みつつ、教育・研究環境の整備及び教育・研究設備のより一層の充実を図っていく方針である。

そうして、学生も教員も職員も元気一杯の魅力ある大学を目指して行く所存です。

ハ) 重点事業内容

教学面では、

・入試戦略及び就職対策の目玉として、学生への実社会に対する即戦力、付加価値の付与（外国語、文章表現、コンピューター等への学習支援、ライセンス取得支援、能力開発学習、留学等のキャリア支援）を目的としたCEC（キャリア・エデュケーション・センター）の開設。

・人間学部の改組改編の一環として、社会的存在としての大学（大正大学）の使命を果たすことを目的に、つまり地域社会・地域住民とのかかわりのなかで福祉やメンタルケア等種々の実践を試み、その結果学生のいわゆる「社会力」の育成を目的としたNCC（ネクスト・コミュニティ・コース）の開設。

.大学院運営委員会を開設し、専門大学院構想（6年制）、仏教研究を基盤とした総合大学院構想、接続、補完教育と横断型指導体制の確立、大学院進学希望者の育成等の検討を行う。

.学術研究を積極的に推奨していく為に、個人研究費の見直しを行う。

.パソコン教育の一層の充実及び社会調査士等の認定科目の充実を図る。

.第三者評価に対応する為、「授業満足度調査」を行い且つ満足度アップの為、各学科専攻にてシラバス検討会を実施し見直していく。

.教育・研究面のグローバル化、ボーダレス化に対応し、国際交流の積極的な展開、具体的には韓国の東西大学、米国のウエスタンミシガン大学との交流開始。

.学生サービス、教育・研究環境の向上を目指し、図書館の夜間開館時間の延長を行う。

経営管理面では、

.17年度のこれらの諸改革、施策を円滑に推進していく為に、事務局の機構改正を行う。

.第三者評価に対応し財務面では、

イ.予算編成にあたっては、帰属収支尻（帰属収入 消費収支）を最重視し、この黒字確保を絶対条件とする。

ロ.収支尻確保の一環及びペイオフ対策として、引当特定預金・資産を主に効率的な資金運用を行う。

ハ.財務諸指標のなかで他大学に比べ特に劣っている指標について集中的に改善を行う。

.教育・研究環境の整備については、

イ.新教室棟の完成、CEC,NCCの開設に伴い、学内諸施設の総合的調整を行い、効率的運用を行う。

ロ.キャンパス内の諸施設の老朽化に伴い、長期改修計画（10ヶ年）を作成、緊急度の高いものから順次計画的に改修を行う。

ハ.身障者、高齢者の為に、教室棟の一部にエレベーターを増設する。

.教育・研究設備の充実については、

イ.新教室棟については、全教室にAV機器を設置する。

ロ.教育・設備についても老朽化、旧式化に対応し、長期改修計画に基づいて緊急度の高いものから順次改修、入れ替えを行う。

以 上